

新東京病院の臨床研修

初期研修管理委員長 西 将則



2017年度総括と2018年度について

2017年度は初期研修管理委員のメンバーが一新し、副委員長の内臓内科 田原先生と脳神経外科 関原先生とともに、これからの初期臨床研修プログラムについて検討を開始しました。2018年度から始まる新専門医制度を見据え、当院における初期臨床研修医の役割をもう一度見直し、当院が地域の中核病院として、そして日本有数の診療実績を誇る病院として今後発展していく上で、初期臨床研修医にも大いに活躍してもらえ

るようなプログラムを目指しております。現在当院で研修している15名の初期研修医（1年目8名、2年目7名）はいずれも優秀かつ熱意があり、当院での救急医療をはじめ日常診療を支えています。当院は、こういった未来の医療を担う医師をよりサポートできる体制を築き、今後も基幹型臨床研修病院としての役割を果たしていきたいと考えております。

初期研修医の業績

■学会発表

開催日	学会名・招聘先	演題名	役割	開催地	氏名
2017.8.27	第3回誠善会初期臨床研修医合同研修会	重複感染が疑われた熱帯熱マラリアについて 横行結腸穿孔に対して緊急小腸・結腸切除術後にDLBCLが明らかになった1例	筆頭演者	千葉	山科 絵莉子 合田 秀太郎



第3回誠善会初期臨床研修医合同研修会発表の様子（左：合田秀太郎先生・右：山科絵莉子先生）



2017年度初期研修1年目・2年目（左から：西條史祥、幡手亜梨子、齋藤真人、長塚大騎、細江丈郎、近藤佑樹、奥口聡美、合田秀太郎、鎌田恵太、高橋昌吾、山科絵莉子）

研修医の声

初期研修1年目 近藤 佑樹



私は心臓血管外科志望であるため、関東で循環器疾患に強い病院を探していたところ、出会ったのが新東京病院でした。当院は研修医1人に対して1人以上の上級医がつく体制です。実際に入職して間もない右も左もわからない状況であった私を、上級医の先生は優しく、時には厳しく指導して下さいました。手技も非常に多く、早い段階から本格的な医療行為を実践で学ぶことができました。救急外来のファーストタッチは研修医一人で行います。様々な症例を経験でき、基本的な初期診療を一年を通して学ぶことができます。循環器疾患のカテーテル治療や手術は最先端のことに実施しており、症例数もとても多く、他の病院では経験できないことの一つであると思います。もちろん循環器疾患以外にもとても充実しています。外科医志望の私にとっては非常に嬉しいことに、多くの手術に入り、1年目にして執刀医を数多く経験させて頂きました。研修医2年目は外科系を中心に選択し、手術や周術期管理に対してより専門的に学ばせて頂く予定です。いち早く心臓血管外科医として活躍するため、初期研修医時代から外科の基本、循環器の基本を習得できるよう精進して参りたいと思います。

初期研修2年目 山科 絵莉子



2年前、国家試験の合格を手にした瞬間から自分の医師人生がどうなっていくのかを想像し、期待と不安が入り混じりながら、新東京病院に初期研修医として入職しました。そんな日を思い出しながら、研修医を今終えようとしています。研修医生活は毎日目まぐるしく過ぎていき、あっという間の2年間でした。それぞれの科でたくさんの手技を経験でき、自分で担当患者様を持ち上級医と一緒に治療を考えながら患者様に向き合い、同期や先輩、後輩、親身にご指導して下さいる先生たちのおかげで充実した日々を送ることができました。また、2年目には外病院での研修も多く、外部の研修医や先生たちとも関わることができてとても良い刺激になりました。私は今後消化器内科に進む予定です。新たな土地での勤務になり、研修医が終了し責任もより一層強まってくることに不安を感じています。しかし、1日でも早く自分で責任を持って治療し、患者様が退院していく姿を見られるように技術、知識をさらに深めていきたいと思っています。患者様から先生に診てもらって良かったと思ってもらえるように精進していきたいです。



ICUにおいて



2018年3月7日 海外研修において
(The First Affiliated Hospital, Sun Yat-sen University)